

特集

夏祭り

復活に込めたそれぞれの思い



神栖の夏を盛り上げる祭りの数々。新型コロナウイルスの影響で3年間にわたって中止されていましたが、いよいよ今年は4年ぶりの開催が決定するなど、大きく動き始めています。今回は、かみす舞っちゃげ祭りを中心に、祭りの魅力と地元注ぐ熱い思いをお届けします。

かみす舞^ぶっちゃげ祭り

9月16日(土)・17日(日)開催

よさこい演舞で一大イベントに急成長

観客の目を釘付けにする、圧巻のよさこい演舞。弾けるような躍動感と一糸乱れぬ協調性、粋で華やかな衣装、迫力ある大旗など、そのすべてに心が沸き立ちます。

かみす舞っちゃげ祭りが初めて開催されたのは2010年。最初はかみす七夕まつりに合わせて行なわれ、翌年からは神之池緑地で神栖花火大

会と同時開催。その後、神栖中央公園に会場を移してから、土曜の夜空を彩る花火は前夜祭の大きな見どころとなっていました。

市内ではまだ歴史の浅い祭りですが、年々参加者や観客が増え、県外へと成長しました。猛威を振るった新型コロナウィルスの影響で、やむなく中止せざるを得なかった3年間の開催が決定！いよいよ、待ちに待った復活の日を迎えます。

まちづくりへの情熱が原点

ところで、なぜ神栖市でよさこい演

舞が披露されることになったのでしょうか？ 祭りの誕生秘話を実行委員会会長の野口弘行さんに聞きました。

「2008年、たまたま札幌でYOSAKOIソーラン祭りを見たのがきっかけです。神栖市でも他県から大勢の人を呼べる祭りを立ち上げて、まちづくりにつなげたい。そう考え、さっそく現地の実行委員会に思いを伝えました。2年間にわたる交渉が実り、日本一に輝いた札幌市の「夢想漣えさし」をはじめ4つのトップチームを招待し、第1回かみす舞っちゃげ祭りが実現したわけです」

野口さんの胸には、まちづくりへの熱い思いがありました。「まつり」の文字の間に、ちくちく(地区)を挟むと、まちづくりになるでしょ。祭りによって人を動かすことで、地区は発展します。フードコーナーで地元グルメを販売し、市内に宿泊して祭りを楽しんでもらい、神栖市の知名度を上

げる。経済を潤して地元が活気づけることを目指しています」

「舞^ぶっちゃげ」に込めた思いとは？

次に、祭りの名称に込めた思いを聞きました。「ぶっちゃげ」は、垣根を越えろ！ という意味です。まず、当時の神栖市は市制施行5年目だったので、神栖と波崎がぶっちゃげて一つになろう。また、札幌のYOSAKOIソーラン祭りと高知のよさこい祭りがぶっちゃげて、流派もスタイルも関係なくステージに上がって踊ってもらおう。その2つの意味を込めました」



野口会長

その願い通り、かみす舞っちゃげ祭りは「よさこいとダンスの祭典」という独自の形を確立しています。チャリデーイング、フラダンス、ストリートダンスなど、会場でさまざまなパフォーマンスが繰り広げられ、踊り手と観客がぶっちゃげて楽しんでいきます。



会場は神栖中央公園。築山の上まで観客が押し寄せる



YOSAKOIソーラン界のトップチーム「夢想漣えさし」(上)と「旭川北の大地」(下)も参加

り、の文字の間に、ちくちく(地区)を挟むと、まちづくりになるでしょ。祭りによって人を動かすことで、地区は発展します。フードコーナーで地元グルメを販売し、市内に宿泊して祭りを楽しんでもらい、神栖市の知名度を上

「よさこい演舞については、北海